

◆ 今週のコメント

- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は14.60(993例)で、第47週以降減少していますが、流行発生警報は発令中です。年齢群別では、「5～9歳」(29.0%)が最も多く、次いで「0～4歳」(22.5%)で、第41週以降、「0～4歳」の割合が増加しています。
第51週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した30例のうち、23例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(7例は陰性)。
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は6.02(247例)で、第48週以降増加しており、全国でも第45週以降増加しています。年齢階級別では1歳(46例)が最も多く、4歳以下が56.3%を占めています。
- ・ **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**の定点当たり報告数は1.00(41例)で、過去5年平均値を上回っています。年齢階級別にみると、7歳(11例)が最も多く、次いで6歳(7例)、5歳(6例)の順となっています。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.66(27例)で、本市、全国共に急増しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

ありません

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	14.60	993
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.02	247
	② 水痘	1.10	45
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	41
	④ RSウイルス感染症	0.66	27
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.51	21
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

病原体情報

ありません

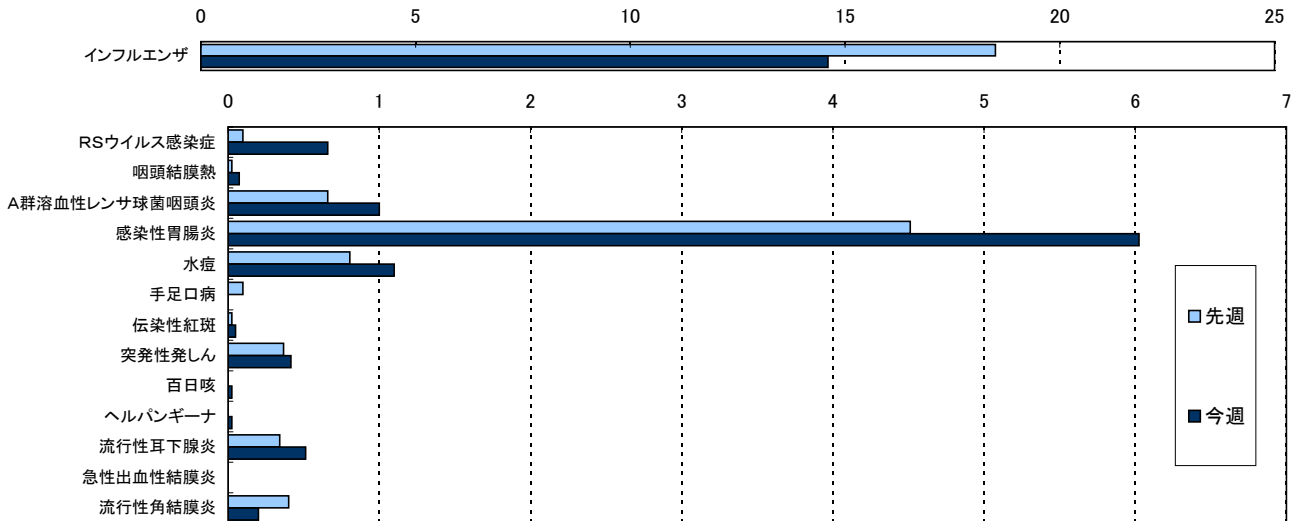
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは、平成21年12月25日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

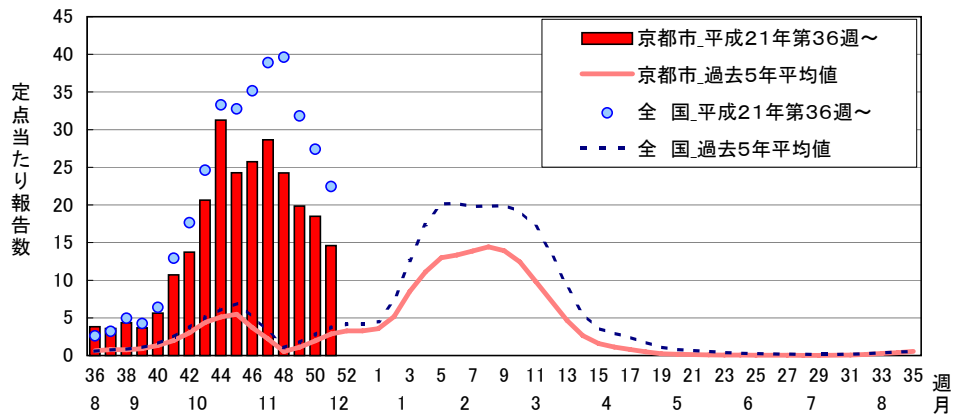
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第51週)と先週(第50週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

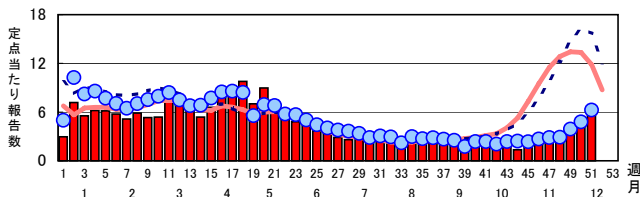
週	報告数(例)
第47週	1948
第48週	1649
第49週	1350
第50週	1258
第51週	993
累積報告数 (第36週以降)	17224



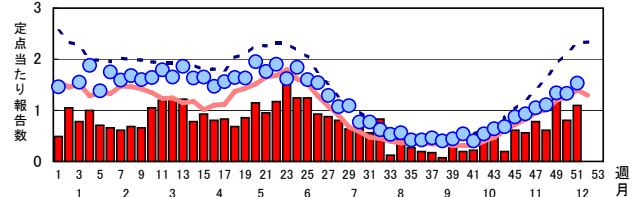
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

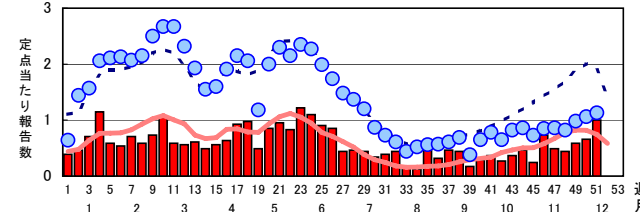
1 感染性胃腸炎



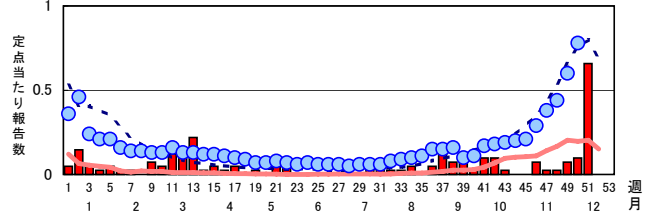
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

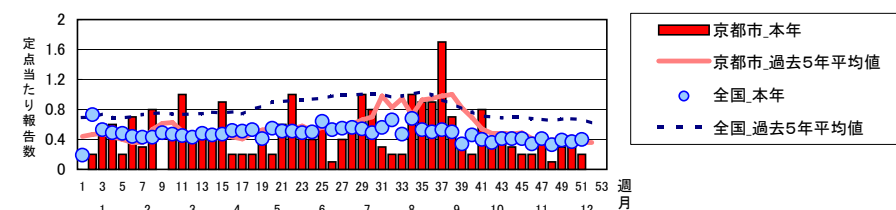


4 RSウイルス感染症



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第51週(12月14日～12月20日)トピックス: <RSウイルス感染症>

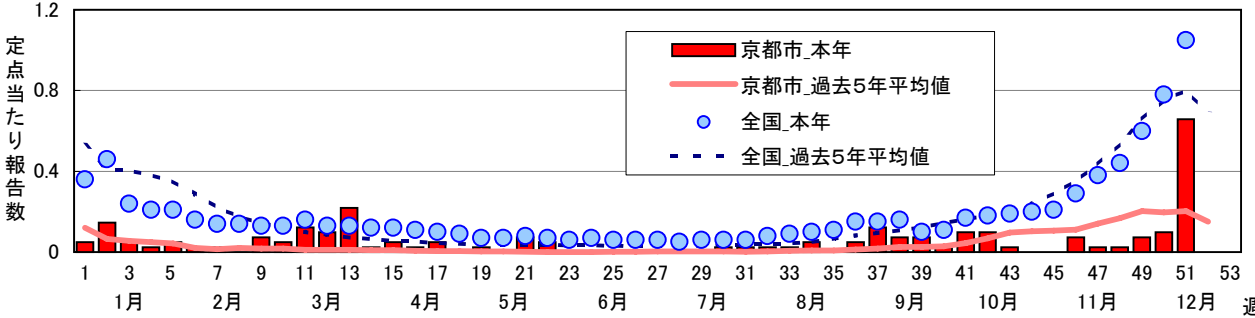
今週の定点当たり報告数は0.66(27例)で、本市、全国共に急増しています。

感染症法に基づく届出の対象となった平成15年11月(第45週)以降、最も多い報告数となっています。

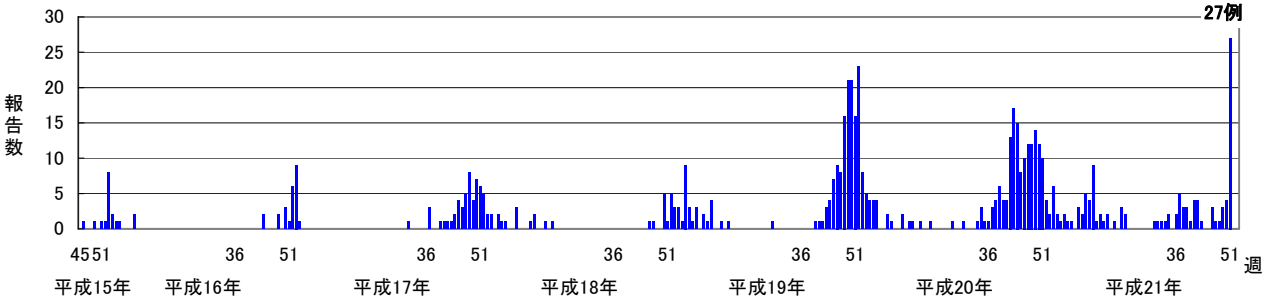
今週の年齢階級別報告数は、1歳(12例)、6～11ヶ月(7例)の順に多く、1歳以下が77.8%(21例)を占めています。

年齢階級別累積報告数(平成15年第45週～平成21年第50週)をみると、1歳、6～11ヶ月、0～5ヶ月の順に多く、1歳以下が80%以上を占めています。また、重篤な症状を引き起こしやすい生後6ヶ月未満の報告も20%以上あります。

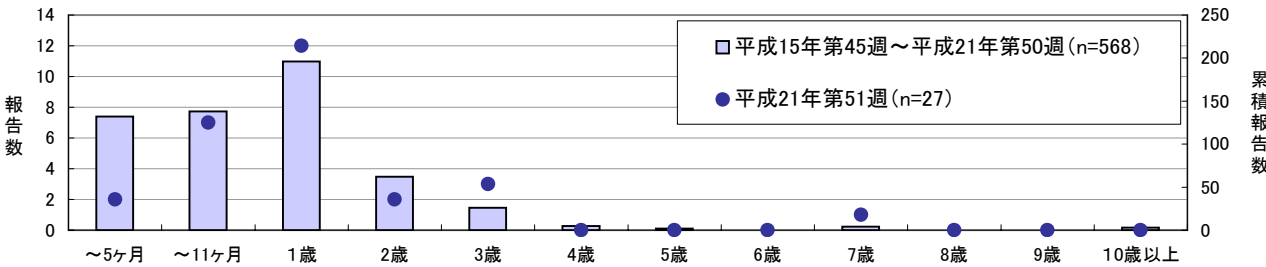
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の平成15年(第45週)以降の報告数の推移



年齢階級別累積報告数(平成21年第51週, 平成15年第45週～平成21年第50週の累積報告数)



年齢階級別構成割合(平成21年第51週, 平成15年第45週～平成21年第50週の累積報告数)

